

1 単元 古代国家の成立と東アジア

2 目標

- (1) 古代までの歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代までの特色を捉えようとする。
- (2) 世界の古代文明や宗教のおこり、律令国家の確立に至るまでの過程、仏教の伝来とその影響などについて、様々な角度から考察することができる。
- (3) 日本列島における農耕の広まりや大和朝廷による統一、摂関政治などに関する様々な資料から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
- (4) 古代までの日本の歴史の特色を、世界の歴史を背景に理解することができる。

3 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
稲作による生活の変化とクニの出現、ヤマト王権と大陸との関係に関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	鉄と前方後円墳が各地に広まった理由を考察し、ヤマト王権の支配の拡大と関連付けて考察し適切に説明している。	環濠集落復元模型、矢の刺さった人骨の写真から、クニの出現という時代背景を読み取っている。	縄文時代と弥生時代の違い、クニの出現の経緯、ヤマト王権の支配拡大の理由、渡来人の役割を理解している。

4 単元の指導について

本単元では、小学校社会科で学習した古墳と豪族に関する知識を基に、「稲作・金属器などが大陸から伝来したことで人々の生活が変化したこと」、「中国の歴史書に倭（日本）のようすが記述されていたこと」、「当時の東アジアとヤマト王権が深くかかわっていたこと」などを捉えさせることをねらいとしている。身近にある古墳にも触れることで、ヤマト王権を中心に古墳が各地に広まったことを考えていくための工夫がある。(教材観)

本学級の生徒は男子〇名、女子〇名、合計〇名である。社会科の学習では集中して取り組むことができる生徒が多い。一方で、発問に対して自分から挙手・発表するのは特定の生徒に偏っている。生徒に対して事前に行った自己評価アンケート（5段階評価）でも、「授業中に積極的に発言している」という設問に対する平均値が、〇ポイントと他の設問に比べて低い。そのため、各生徒が積極的に意見を発表できる力を育てたいと考える。(生徒観)

設問	平均値	設問	平均値
①社会科の授業が楽しいと感じる	□	⑥毎時間の学習内容が理解できている	□
②忘れ物をしないで、授業に参加できる	□	⑦ノート・ワークなどの課題の提出を心がけている	□
③ノートを工夫してきちんととれる	□	⑧積極的に発言することができる	□
④集中して授業中に活動することができる	□	⑨世の中のできごとに関心がある	□
⑤毎時間の授業の課題（学習問題）が分かっている	□	⑩家庭学習を行っている	□

毎時の課題を明確にして、生徒が活動内容を理解した上で学習に取り組めるようにする。また身近にある古墳も教材として扱い、生徒自身の生活との関わりを考えながら学習に取り組めるようにする。そこで、小グループ活動を通じてお互いに意見を交換し合い、他の生徒の意見を尊重しながら自分の考えを深める、学び合いの力を育てる授業を展開する。(指導観)

5 指導と評価の計画（14時間取扱い）

第1次 人類の登場から文明の発生へ……………4時間

第2次 東アジアの中の倭（日本）……………3時間

時	学習内容・活動	関	思	技	知	観点別評価規準
1	・縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子を表す絵画資料から、変化した点を見付け、その影響を考える。	○			○	・縄文時代と弥生時代で、人々の生活にどのような違いがあるかについて関心を持っている。 ・弥生時代に伝えられた道具や文化を具体的に理解している。
2	・中国の歴史書を現代語訳した資料から、倭（日本）の移り変わりを読み取る。			○		・「漢書」「後漢書」「魏志」倭人伝に書かれた倭（日本）の様子から、その移り変わりを読み取っている。
3 (本時)	・鉄や前方後円墳が各地に広まった理由を考え、ワークシートにまとめる。		○			・鉄や前方後円墳が各地に広まった理由を、適切に表現している。

第3次 中国にならった国家づくり……………4時間

第4次 展開する天皇・貴族の政治……………3時間

6 本時の指導

(1) 目標

鉄や前方後円墳が各地に広まった理由について、資料に基づいて考察したことを適切にまとめることができる。

(2) 準備・資料

資料集、用語集、大仙古墳の写真、舟塚山古墳（石岡市）・勅使塚古墳（小美玉市）の写真、ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 大和地方の古墳と、身近な地域の古墳を比較し、それらがつくられた頃の様子を考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思っていたよりもずっと大きい。 ・お金（力）がある人が作らせた。 ・身の回りにも古墳があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大仙古墳の写真を提示し、大きさと作らせた人物を予想させることで、古墳に対する関心を持たせたい。
<p>2 本時の学習課題について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(学習課題) 鉄や前方後円墳は、どのようにして全国に広まったのだろうか。</p> </div>	
<p>3 ヤマト王権と朝鮮半島の関係について教科書・資料集・用語集を用いて調べる。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の朝鮮半島はいくつかの国に分かれて戦っていた。 ・鉄が採れる朝鮮半島南部とヤマト王権との間に深いつながりがあった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマト王権が戦いに協力するかわりに、鉄を手に入れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で作業を行う前に、ヤマト王権が小学校社会科で学習した「大和朝廷」と同一であることを示し、生徒が適切に知識を活用できるようにしたい。 ・読み取った内容についての話合いが円滑に行われていないグループには机間指導を行い、教科書の掲載箇所を示し、ヤマト王権と朝鮮半島との関係に着目させたい。 ・グループ内の話合いでは、根拠を明らかにして説明できるように助言したい。
<p>4 ヤマト王権と各地の豪族の関係について教科書・資料集・用語集を用いて調べて、小グループごとに発表する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳時代に、ヤマト王権から各地に前方後円墳が広まっていった。 ・古墳の広がりとともに、鉄が全国に広がっている。 ・当時の日本には鉄を作る技術がなかった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマト王権は武器や農具の材料となる鉄を多く持っていることで、各地の豪族を支配できた。 ・各地の豪族はヤマト王権との結び付きによって、その土地を支配することができた。 ・各地の豪族はヤマト王権に従うことで古墳を作る許可をもらい、各地に前方後円墳が広まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活圏にある古墳の写真を提示して、古墳が全国に広まったことに気付かせ、学習課題に取り組む意欲を持たせたい。 ・鉄の広がりや古墳の広がりとの関連性に着目させたい。 ・鉄に着目させて、ヤマト王権と各地の豪族との結び付きを考察させたい。 ・ヤマト王権と各地の豪族との結び付きや古墳の広がりについて考察させたい。 ・ワークシートに記入する際には、文章だけでなく図や絵など多様な方法で表現させたい。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価) 鉄や前方後円墳が各地に広まった理由を、資料から根拠を示して適切にまとめることができたか。 (ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際には、話す側・聞く側双方の姿勢・態度についても意識させたい。
<p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(まとめ) 鉄や前方後円墳は、朝鮮半島とのつながりを持ったヤマト王権を中心に、各地の豪族との関わりを深めながら広がっていった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをきちんとまとめられている生徒に発表させることで、本時のまとめとしたい。